

# エネルギー・環境の選択肢に関する意見聴取会

## 那覇市会場

### ■日時

平成24年7月29日(日)13:00～15:00

### ■場所

那覇第2地方合同庁舎1号館

### ■参加者数

計37名

### ■当日の様様

※一般参加者のお名前については、英文字に置き換えさせていただきました。

### <開会>

#### ◎司会者

ご来場の皆さま、こんにちは。大変長らくお待たせをいたしました。ただいまより「エネルギー・環境の選択肢に関する意見聴取会」を始めさせていただきます。皆さま、本日はお忙しい中、ご参加をいただきまして誠にありがとうございます。

本日は46件の参加お申し込みに対し、12時50分時点での実際の来場者数29名、また報道関係者8社16名となっております。また、意見表明希望者につきましては、0%シナリオに対する意見表明希望者8名、15%シナリオに対する意見表明希望者0名、20～25%シナリオに対する意見表明希望者0名、3つのシナリオ以外に対する意見表明希望者1名、参加のみの希望者37名です。

本日は、0%シナリオに対する意見表明希望者から8名、15%シナリオに対する意見表明希望者から0名、20～25%シナリオに対する意見表明希望者から0名、3つのシナリオ以外に対する意見表明希望者から1名、計9名の意見表明者の方から、それぞれ7分程度でご意見を表明していただきます。

このように今回から3つのシナリオ以外に対する意見表明も追加させていただいております。今後は頂きましたアンケートを参考とさせていただき、運営改善を図ってまいりますので、皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

現在、政府は「エネルギー・環境会議」において、東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、エネルギー・環境戦略の見直しを行っています。

6月29日の同会議において、2030年のエネルギー・環境に関する3つの選択肢を取りまとめました。今後、本意見聴取会をはじめとした国民的議論を礎として、8月にエネルギー・環境の大きな方向を定める「革新的エネルギー・環境戦略」を決定し、政府として責任ある選択を行います。

ここで、本日のスケジュールをご案内いたします。まず初めに、石田国家戦略担当副大臣の挨拶の後、政府担当者による「エネルギー・環境に関する選択肢における3つのシナリオ」について、パワーポイントを使いご紹介をさせていただきます。

その後、9名の意見表明者からお一人さま7分以内をめぐり、ご意見を述べていただきます。また全員の意見表明の終了後に、それぞれ意見内容についてのご意見・ご感想がありましたら、お一人さま2分以内を目安にご表明いただきたいと思います。

ご来場の皆さまのご理解ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

## <副大臣による冒頭の挨拶>

### ◎司会者

それでは、開会にあたり、石田国家戦略担当副大臣からご挨拶申し上げます。それでは、石田副大臣、よろしくお願いいたします。

### ◎石田副大臣

皆さん、こんにちは。ただ今、ご紹介をいただきました、私、内閣府副大臣、衆議院議員の石田勝之と申します。どうぞよろしくお願いいたします。本日は大変お暑い中、またお忙しい中にも関わらず、この意見聴取会にお集まりをいただきましたことを、先ずもって心から感謝を申し上げる次第でございます。

この、原発に依存しない社会をつくりたい。多くの国民の皆さん方がこう思っておられると思います。こうした国民の皆さま方の思いを理解した上で、原発への依存度をできる限り減らす、これが福島原発事故の反省を踏まえた政府の基本方針でございます。現実を見据えて政府は具体的な道筋を模索していきたいと考えております。

原発の依存度をできる限り低減させていくためには、原発に代わるエネルギーをどうするか大きな論点となるわけでありまして。「原発からグリーンへ」。政府はこの基本方針で臨みたいと考えております。原発の低減は、風力や太陽光、あるいは省エネや燃料のグリーン化など、主役として補っていきたいと考えております。

私は沖縄振興の担当副大臣も務めておりまして、沖縄の諸問題の解決に携わってきたところでもございます。今回のテーマであるエネルギーと環境については、現在沖縄県には、再生可能エネルギーをはじめとする創造的なエネルギープロジェクトが数多く展開されていると承知をいたしております。

本日はこの会場に来る直前まで、高効率ガス発電所である吉の浦火力発電所を視察をしてきたところでもあります。こうした取り組みを見て、沖縄県の新しい試みに励ま

れる思いを強くいたしたところでもあります。「原発からグリーンへ」という新しいエネルギー構造は、県民の皆さま方一人ひとりが需要家として主体的にエネルギーを選ぶ、また自ら電気を作っていくという世界に変えていくということ。皆さま方一人一人の選択の自由と、そして責任が生じてくるわけであります。その意味では、これまでの専門家の間の議論だけで決められたエネルギーの選択について、沖縄県民の皆さま方にもお一人お一人、お考えいただきたいと思うのでございます。

こうした国民的議論については、政府としての初めての取り組みでもあります。また皆さま方から御意見を踏まえ、随時改善を図りながら取り組んでまいり所存でもございます。この意見聴取会は、様々なお立場の方との意見を同時に聞き、エネルギーの選択を考える一助としていただくもの。今回の選択肢は私たちの世代の暮らしや国の在り方を決めるのみならず、将来の世代や国際社会にも大きな影響を及ぼす選択であろうと考えております。皆さまの意見にしっかり耳を傾けた上で、政府として責任ある選択を行いたい。どうか皆さま方から活発なご議論をよろしく願いを申しあげまして、私からの挨拶に代えさせていただきますと存じます。どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

#### ◎司会者

石田副大臣、ありがとうございました。

#### <「エネルギー・環境の選択肢」の3つのシナリオ説明>

#### ◎司会者

それでは、「エネルギー・環境の選択肢」、3つのシナリオについて、清水内閣審議官よりご紹介申し上げます。それでは、よろしく願いいたします。

#### ◎清水内閣審議官

ご紹介にあずかりました内閣審議官の清水と申します。よろしく願いいたします。

それでは、私のほうから「エネルギー・環境に関する選択肢」について説明したいと思います。前のスクリーンにも映っておりますが、お手元にも同じ資料を配付しておりますので、適宜お手元をご参照いただければと思います。

まず、表紙をめくっていただいて、第1ページ目でございます。

震災前、我が国は原子力を基幹電源とするエネルギー選択を行いました。原発は地球温暖化問題の解決に役立ち、準国産電源であるという認識で、原発比率を2010年の26%から、2030年には45%まで引き上げる、こういう選択を行ったわけでありませぬ。

しかし、昨年3月11日の東日本大震災と東電の福島原発の事故を受け、この方針を白紙から見直すことといたしました。昨年7月には政府のエネルギー・環境会議におきまして、原発依存度を可能な限り減らすという基本理念を決定しました。この方向性は

共有しつつあると言えますが、どの程度の時間をかけて、どこまで減らすべきか、どのエネルギーで補っていくか、またどの程度のコストを掛けて国民生活や産業活動の構造転換を図るかについては、意見が割れていると思います。

次の 2 ページをご覧くださいと思います。

今回政府が提示する新しいエネルギーの選択の方向性は、表題にありますように「原発からグリーンへ」となります。図にあるように原発依存度を下げ、化石燃料依存度を減らすとすれば、これからの軸は再生可能エネルギーそして省エネルギーとなります。どのようなエネルギー選択を行うにしても、1 番目にはクリーンエネルギーへの転換で成長を加速する。2 番目には、需要家がエネルギーを主体的に選択するシステムをつくるため、エネルギー・電力システムの改革を行います。そして、こういった改革を国際貢献につなげていきたいと考えております。

3 ページ目に移ります。

「原発からグリーンへ」という大きな方向性の下、エネルギー選択を行うにあたっては、第 1 に原子力の安全性確保と将来リスクの低減、第 2 にエネルギー安全保障の強化、第 3 に地球温暖化問題解決への貢献、そして第 4 にコストの抑制と空洞化防止という 4 つの視点が重要となります。これらの視点を全て満たすのは、なかなか困難というトレードオフの関係もありますが、どれを重視するかによってエネルギー選択も変わってくると思います。

今回 2030 年に向け、原発低減の度合いや、再生可能エネルギーや省エネ拡大の度合い、それからエネルギー転換のスピードが異なる 3 つのシナリオを用意いたしました。ゼロシナリオ、15 シナリオ、20～25 シナリオということです。

次、4 ページのグラフをご覧くださいと思います。このグラフにおいて、3 つのシナリオと 2010 年の実績、そして現行のエネルギー基本計画を比較しております。電源構成は赤が火力、緑が再生可能エネルギー、そして紫が原子力となっております。

一番左の 2010 年の実績を見ますと、火力が主体になっております。一番右側の現行エネルギー基本計画の 2030 年の姿は、原子力が主体という考え方であります。それと比較しまして今回真ん中に 3 つのシナリオを提示しておりますが、これらはいずれも原発依存度を低減し、再生可能エネルギーを伸ばしていく、そういうシナリオになっておりますが、そのシナリオごとにその程度が違うというふうになっております。

次、5 ページ目にまいります。

これは 3 つのシナリオの基本となる原発依存度低減の考え方についてであります。どのシナリオでも共通事項として、第 1 に徹底した安全対策の強化によってリスクを最小化する。第 2 に、使用済核燃料や放射性廃棄物の発生を抑制し、将来世代への負担を減少させる。第 3 に、安全を支える技術や人材を確保、開発します。

その上で、ゼロシナリオは 2030 年までのなるべく早期に、原発比率をゼロにします。15 シナリオは、2030 年に原発依存度を 15%程度とします。この数字は現存する全て

の原発に、40年運転制限制度を自然体で運用した場合の数字にほぼ相当し、原発の新增設が難しい状況にあるという実情を踏まえています。

20～25シナリオ、これは緩やかに原発依存度を低減しながら、一定程度維持するシナリオです。原発の新設、更新が必要となりますので、原子力に対する国民の強固な信認が前提となります。核燃料サイクル政策は、ゼロシナリオの場合は直接処分、15シナリオ、20～25シナリオ、この2つの場合は再処理も直接処分もあり得ます。どのシナリオも不断の検証を行うとともに、2030年を目途に大きな方向性に関する検証を行うこととしております。

6ページ以降、ゼロシナリオ、15シナリオ、20～25シナリオを個別に説明しております。それぞれ温室効果ガスの排出量、あるいは電気代上昇などの経済影響などの数字も載せておりますので、よくご覧いただければと思います。

まず、「ゼロシナリオ」、6ページでございます。これは2030年までのなるべく早期に原発をゼロにするシナリオです。原発をゼロとするため、より大きな再生可能エネルギーや省エネ対策を行うことが必要となってきます。再生可能エネルギーは他のシナリオよりも高い35%とします。経済的負担が重くなっても省エネを他のシナリオより強化します。これにより、CO<sub>2</sub>の排出量も化石燃料輸入額も、他のシナリオと遜色のないレベルまで低くなりますが、一方コストや経済への影響は、他のシナリオよりも大きい傾向となります。

次の7ページ、「15シナリオ」です。

これは、原発依存度を着実に下げるシナリオです。2030年の原発比率を15%程度というのは先ほど説明したとおり、40年運転制限を現存する全ての原発に、自然体で運用した場合の値にほぼ相当します。再生可能エネルギーは、2030年で30%とします。また省エネルギーは着実に推進します。CO<sub>2</sub>の排出量や化石燃料の輸入額はゼロシナリオと同程度であります。コストや経済への影響については、20～25シナリオより大きく、ゼロシナリオよりも小さい傾向となります。

次、8ページ、「20～25シナリオ」です。

これは、緩やかに原発依存度を低減しながら、一定程度を維持するシナリオであります。原発への新設、更新が必要となります。再生可能エネルギーは、2030年で20～30%とします。また、省エネルギーも着実に実施します。このシナリオでは、原発の新設あるいは更新が必要となるため、原子力および原子力行政に対する国民の強固な信認が前提となります。このシナリオでは他のシナリオよりCO<sub>2</sub>削減が進み、化石燃料輸入額も少なくなります。また、経済への影響も他のシナリオより小さいと言えます。

次の9ページと10ページで、原発依存度低減と対になるグリーンシフトの具体像について整理いたしました。まず、9ページ、再生可能エネルギーです。左側の2010年の現状、ここでは再生可能エネルギーが10%です。真ん中の15や20～25シナリオは、これを30%まで拡大することとしております。これは太陽光、風力を合わせて、現在原発1基相当分であるところを20基相当分まで拡大することになります。

太陽光でいえば、現状の 90 万戸から設置可能なほぼ全ての住宅の屋根に導入し、1000 万戸の住宅に太陽光パネルをのせなければなりません。一番右側のゼロシナリオの場合は、再生可能エネルギーは 35%となります。太陽光発電でいえば、強度の観点から現在設置が不可能な住戸に対しても、改築や補強をしながら導入していくことが必要となります。

次の 10 ページは、省エネなどであります。左側の 2010 年と真ん中の 15 シナリオ、20～25 シナリオを比較しますと、設備や機器の入れ替えの際に最新鋭の機器を導入することによって省エネを行います。さらに、一番右のゼロシナリオでは、規制によって効率の劣る既存の機器や設備、住宅までを入れ替える、こういった対応も必要となってきます。

11 ページ、ここでもう一度各シナリオの電源構成の比較に戻ります。2030 年までにどこまで原発依存度を下げ、どの程度のコストをかけて、どこまで再生可能エネルギーや省エネを拡大するのかを皆さまに問いかけたいと思っております。原発を大きく減らせば、再生可能エネルギーや省エネルギーなどの、グリーンへのシフトをより早くより大きくしなければなりません。グリーンへのシフトは誰もが望ましいとは考えますが、大きく変えようと思えば時間もコストもかかります。

一方、原発を減らす度合いを小さく、またスピードを遅くする場合には、大前提として国民の原子力に対する強固な信認がなければなりません。「原発からグリーンへ」という共通の方針の下、3 つのシナリオを用意いたしました。原発依存度の低減の度合い、再生可能エネルギー、省エネの拡大の度合いやスピードについて、どこまで行くのかよく見比べていただきたいと思っております。

次、12 ページ、「今後の進め方」になります。エネルギー・環境会議は、この 3 つのシナリオを基に、国民の皆さま同士の対話が進むよう、さまざまな手法をもって国民的議論を展開していきたいと考えております。国民的議論につきましては、この意見聴取会をはじめ全国 11 カ所で 8 月 4 日まで行います。さらに、討論型の世論調査という新しい試みを 8 月 4 日と 5 日に行います。また、パブリック・コメントは 8 月 12 日まで行い、皆さまからの意見を幅広く集めていきたいと考えております。

その上で、8 月を目途に「革新的エネルギー・環境戦略」を決定します。そこではエネルギー・環境の大きな方向性を定め、エネルギー・ミックスの大枠と温室効果ガスの国内排出量などを示します。

その後も不断の検証を行うとともに、2030 年をめどに、どのシナリオを選択しても大きな方向性に関する検証を行います。すなわち、国民的な議論は大きな方針が決まった後も続いていきます。

13 ページ、最後「おわりに」ということです。今回の「エネルギーと環境の選択」は国民的な課題の選択であり、将来世代に影響を及ぼす選択であり、世界が注目する選択であります。広く国民的議論への皆さま方の参加を期待しております。政府としてはそれを

礎にして、責任ある選択を行っていきたいと考えております。

なお、選択肢に関する様々な資料、バックデータなどは、国家戦略室の特設ホームページ「話そう“エネルギーと環境のみらい”」に掲載しております。ただいまお配りした資料の表紙に、ホームページのアドレスが出ておりますので、ぜひご参照していただければと思います。

私からの説明は以上です。ご清聴どうもありがとうございました。

## ◎司会者

「エネルギー・環境の選択肢、3つのシナリオ」について、清水内閣審議官よりご説明いただきました。

## <意見表明(一般参加者より)>

### ◎司会者

続きまして、意見表明者の皆さまからご意見をいただきたいと思っております。本日は、意見表明を希望された0%シナリオに対する意見表明者8名、15%シナリオに対する意見表明者0名、20～25%シナリオに対する意見表明者0名、3つのシナリオ以外に対する意見表明者1名の合計9名の方に意見表明をお願いいたします。

順番は、お名前の五十音順とさせていただきます。時間の関係上、お一人さま7分以内をめどに意見表明をお願いいたします。また、意見表明の概要につきましては、席上配布にご同意していただいた方につきましては、お手元の配付資料「意見表明者の意見概要一覧」に記載させていただきます。ご覧ください。

なお、意見表明時間のご参考として、係の者が残りの時間を表示させていただきますので、ご参考にしていただければと思います。

では、意見表明の番号1番の方、お手元のマイクをお使いになって、できましたらお名前とお住まい、またご職業など差し支えのない程度で構いませんので、お話しいただいた上で意見表明をお願いいたします。番号1番の方は、0%シナリオについての意見表明と伺っております。それでは、1番の方、よろしくをお願いいたします。

### ◎意見表明者1

こんにちは。1番で意見を述べさせていただきます。Aといいます。室内が暑い感じがするんですけど、これは何とかならないかなあと思いますが。

僕は福島の中通りの出身で、今は那覇に住んでおります。なので、今回の震災というか、その後の原発の事故の被害なんかも、実際実家が遭っていますし、友人たちも場合によっては近くまで行ったり、そこで暮らす人たちはたくさんおります。

今皆さんご存じかどうか、那覇市に福島から小中学生が100名来ていて、1カ月余り生活をみんなで共同しながらしています。きのうも僕はボランティアで参加をしまして、小

学生、1年生から6年生まで、あとリーダーの中学生たちと美ら海水族館まで行って来たんですけども、バスの車中、1人の男の子が「福島って一体どうなっているんですか」って聞いてくるんですけども、そうなったときに答えられる大人がどれぐらいいるかなというのは、実は日本の中でももしかしたら誰もいないのかなと思いつつ、非常に僕も困って、大変なことが起きているんだよというぐらいでやめておきました。

中学生ぐらいになればたぶんいろんな情報が入るでしょうし、どういう状況になっているかというのは、うすうす感じているとは思いますが、僕の実家なんかでもなかなか、僕も遠くに住んでいるので、帰ることもままならないですし、食べ物や注意とか母親に対してあるいは友人に対してもするんですけども、なかなかそのへんはタブーになっていて、触れられない部分がたくさんあります。

まず、政府の人たちに考えてほしいのは、そういう子どもたちがどういうふうに住んでいるかとか、あるいは僕の母親なんか70も超えていますし、父親は亡くなっていますし、お墓が中通りにありますけど、生きてから死ぬまでというのを守れない国というのはどうかというのを非常に考えていまして、実際今守ってくれていないですよ。

まあどこかの県の方が、原発の事故で亡くなった方はいないなんていう発言をして、問題になっていましたけど、実際大変な大きなことがなかなか皆さん実感が湧かないかと思えますけど、人の住めない地域が日本のある部分にあるんですよ、実際。なかなか今ほんとに誰も触れなくなってしまって、宮城や岩手の沿岸部にはそれは有名人の方もいきます、石巻とか大船渡とか。僕もたくさん友達とか東北にはいとこやら友人やら家族がいますので、その辺りだって関係のない場所ではないですけども、福島の例えば福島市、郡山市あるいはいわき辺りで、ほんとに有名な方がコンサートを開いたりとか、あるいは政治家の人がやってきて話をするなんていうことは、たぶんやってないんじゃないかなと思います。一部福島出身のコピーライターの方とかがいろんな活動をされて、非常にありがたいなと思ったりはしていますけども、残念なことに福島というのは触れられない場所になっていますし、そこに人の住めない場所が存在してしまっているというのは、ほんとに残念でならないですね。

そういうことを踏まえて、今日のエネルギー・環境というお話なんですけども、どうしてもここになると、原子力を減らすとか、経済の話がついて回ってしまって、さっき僕が言った「生きる、死ぬ」までの話というのは、ほんとに全然触れられなくて「あれ」と思っちゃうんですけど、むしろそちらのほうが大事なはずなのに、子どもたちは1カ月もいるんですよ、那覇に。それは普通に考えれば、旅行ではないです。夏休みの研究課題にしても長過ぎます。

ということは、1カ月いる理由があるわけですよ。お母さんたちが付いても来ずに、子どもたちだけでも1カ月那覇にいてほしいという思いがあるわけですよ。体の中をきれいにするためですよ、それは誰も言いませんけど。1カ月で足りるのかどうか、僕も専門家ではないので分かりませんが、1カ月もいるというのは異常な事態ですし、しかも1

年生とかもたくさんいます。夜は泣いているそうです。

そういうのを聞くと、僕ら大人がちゃんと日本の国を動かしていつているのだろうかというか、実際政治にかかわっている人たちが、そういうのを無視して今動いていることは非常に残念です。特に「エネルギーと環境」の環境のほうなんですけど、せめて環境が付いてくれたからありがたいんですけど、やっぱり「生きる、死ぬ」というのは自然の循環だと思っていて、別に経済だけのお金の回りのことを言っている話じゃないと思うんですね、官僚の人たちも政治の人たちも。それを無視して、自然のシステムを無視した国の運営というのを、現に今やってしまっているところをどうにかしてほしいなと思って、僕はゼロシナリオということに意見を集めています。

ちょっと時間がないんですけども。特に意見を集める場合に、専門家の人たちに意見を聞くというのは、日本の人は非常に大好きでやるんですが、実は専門家の人というのはほんとにとんがった知識しか持っていないので、残念ながら。もちろんそれはそれで素晴らしいんですけども、その横のつながりを、例えば原発の専門家、あとは社会学かもしれないし、教育かもしれないし、福祉の人たちかもしれないし、自然の人たちかも。昆虫のことを調べている人かもしれないんですけど、そういう横の知恵をつくり上げるのが政治だったり、官僚の人たちの役目かな。

僕は NPO に今かかわっていますけど、フリーの立場で、どうしても役所の中に入ると動けないという意見を時々聞くんですね。自然何とか課、自然何とか課なんていうのが並んでいる部署で、お互い何をしているか分からないなんて言っていますから、そういう場所をやっぱ自由に横断をして、それは民間 NPO や、もしかしたらアーティストの人たちがそういう役目を担うのかもしれないんですけど、突拍子もないかもしれませんが、大きく舵を切るにはそういう人たちの力を借りて、あるいはアジアの専門家の人、欧米やもしかしたら中東とか南米とか、ものすごい専門家がたくさんいると思うんですね、世界中に。なんでそういう人たちの力を借りないのかなって、事故のときも思いました。日本だけで何とかしようとか、東芝だけで、三菱だけで何とかしようというんじゃなくて、ちょっとみんな手を貸してくれないかということが、僕らを次につなげていくというお話がさっきありましたけど、これ何十年とかいう単位じゃなくて、何億年とかいう単位でかかるはずなので、原発の使用済みの核燃料、それをつなげていくにはそういう舵取りを、ぜひいろんな方の意見をもらってやっていってほしいなと思います。すみません、駆け足でしたが、以上で終わりたいと思います。ありがとうございます。

#### ◎司会者

ありがとうございました。続きまして、意見番号 2 番の方、お願いいたします。0%シナリオについての意見表明です。お願いします。

#### ◎意見表明者 2

南城市からやってきました B といいます。看護師をしています。1 番の方の意見も全く

そのとおりだと思います。ありがとうございました。今私が感じていることを話します。

私が真っ先にこのような意見聴取会にまで申し込むようになった経緯というのは、やっぱり 3・11 における福島事故の衝撃が始まりでした。それに伴う政府の発表とか、メディアの報道がすごくあいまいで、歯切れが悪かったこともあります。一体何が起きているのだろうかという素朴な疑問を持ったのが発端でした。

原発に対する危険性は何となく感じてはいたのですが、実際に起きてしまったショックは強烈でした。しばらく仕事を続けられなくなっただけで、精神的身体的にもダメージを受けてしまいました。この遠い沖縄に住んでいる私がこのような状態になったのですから、実際に被災された方々のことを考えると、とても言葉では言い表すことはできないと思いました。

私ははっきり言って難しいことはよく分かりません。従って、ここで何年後に何パーセントだとか、経済に与える影響がどうだとか、自然エネルギーがどうだとかって具体的に話すことはできません。そういうことは他の頭のいい人に任せたいと思います。しかし、百パーセントの確信を持ってはっきり言えることがあります。原発は人の手に負えないものである以上、存在そのものが危険であり、不自然なものであるということです。全く人類にとって相いれないものだということです。

0%シナリオというよりも、即刻廃炉が私の意見です。何年後とか、何パーセントと違って、そう悠長なことは言っていられないと思います。原発ほど安全性という言葉が似つかわしくないものはないんじゃないでしょうか。原発自体が不安定なものである以上、安全という言葉は当てはめてはいけないと思います。それを福島とかチェルノブイリが証明してくれています。

「なるべく」だとか「できるだけ」だとか、そういうあいまいな表現をするのはやめてほしいと思います。とにかくまずいったんゼロにする、これからもゼロにする、そう決めてから、ではそこからはどうしようかという発想を展開していくことが大事だと思います。

現に、原発は頼らなくても十分やっていけるという専門家もいらっしやいますし、何度も危機を乗り越えてきた日本人にできないことはないと思います。これは非常に単純明快なことで、駄目なものは駄目と、そういうことです。そこにコストがどうだとか、電気が止まると経済がどうだとか、そういう脅しめいた言葉や数字を並べ立てることによって、惑わされている方はいらっしやると思います。これは理屈ではありません。純粋な心の反応です。原発は絶対に必要だと思いついてしまっている人に、ぜひ尋ねてみたいことがあります。

経産省の誰だとか、どこの議員だとか、何とか電力の社員だとか、そういった役割を全て脇に置いて、一人の人間として原発と向き合ってみてほしいです。ほんとにそれが必要で、なくてはならないものだと思うのでしょうか。自分の心に聞いてみてほしいです。

もしかしたら、地位だとか名誉だとかお金のためにやっているとは思いませんか。それが本当に自分のため、家族のため、社会のためになると信じているのでしょうか。

今、人間として当たり前の感覚を取り戻している人が増えてきました。人間という地球に

存在する生物として、これはやってはいけないことだったのだと、多くの人気がつき始めています。それが毎週金曜日の官邸前のデモとか、各地で草の根的に広がっている抗議行動というかたちで現れているのだと私は思います。

そこに集まってくるお子さんを連れた主婦の方だったり、お孫さんのいるお年寄りだったり、仕事帰りのお父さんだったり、そういった普通に日本で生活をしている人々が、今の日本のこのやり方でいいのかという素朴な疑問を持ち始めたのです。本当に安全で安心な生活を送るためにはどうしたらいいのかということに目覚めたのだと思います。

今までの私もそうしたデモとか抗議行動には全く縁がないと思ってきました。何よりそういうのは好きじゃなかったです。しかし、今回は彼らの行為に深い共感を覚え、自然と応援している自分がいます。

ここ沖縄には原発はありません。そんな所に住んでいる私ですけど、心から官邸前に向いて、一緒にシュプレヒコールを上げたいと思いました。何度も繰り返しますが、これは理屈ではありません。放射能という生き物に対して圧倒的に危険なものは、人類にとって必要なく、排除すべきものです。いくら言葉や数字で脅しをかけても、それは単なる言葉や数字でしかありません。どのようにでも都合のいいようにつくり上げることができます。

何より自然豊かな美しい福島において、ふるさとを追われることを余儀なくされた多くの方々の苦悩、無念は、言葉や数字では表せないと思います。エネルギーやお金はあくまでも手段であって、それ自体が幸せをもたらすものではありません。そんな手段のために、掛け替えのない命を危険にさらすことがあっていいのですか。そんなことに人々は気づき始めたのだと思います。

人には感じ取るという素晴らしい機能が付いています。幸せも感じるものです。物やお金がもたらすものではありません。何よりも原発が人を幸せに導くとは、全く思えません。今、意識のうねりのようなものがあって、人々は新しい政治、新しい社会を求めようになりました。新しいものを受け入れるには、古い考え方を捨てなければなりません。「原発は安全でクリーンなエネルギーです」という古い間違った考え方は、今こそ捨てるべきだと思います。ありがとうございました。

## ◎司会者

ありがとうございました。続いて、意見番号 3 番の方お願いいたします。同じく 0%シナリオについての意見表明です。

## ◎意見表明者 3

こんにちは。那覇市の C と申します。私からは短く述べていきたいと思います。

まず、原子力発電、これは福島原発の事故以降、原子力発電は一度事故が起こってしまったら取り返しがつかない事態になること、これがはっきりしたと思います。まさしく今 1 番の方がおっしゃった、人が住めない場所ができてしまった、この事実を絶対忘れるわけにはいかないと思います。

そして、原子力発電はコストが安いとされてきたと伺っていますが、今回の原発事故によって福島県への賠償、また農産物、水産物などの放射能汚染に対する賠償ですね。このことを考えると、決して原子力がコストが安いとは到底思えません。原子力発電をやめて化石燃料を用いる発電方法に絞ってしまうと、石油または天然ガスを輸入に頼る日本は、燃料資源を海外に意図的に制限されてしまえば、またコストが上がってしまうんじゃないか、国力に影響があるんじゃないかという意見を聞いたことがあるんですけども、まさしくこの点を天然エネルギーで補うべきじゃないかと思います。

最近問題になっています計画停電についてなんですが、これはこの電力需要ピークを軽減するために、各家庭にバッテリーを装備して、使用率の低い時間に電力を蓄電し、各家庭がばらばらの時間に使用する。ばらばらに充電して、ばらばらに使用すれば、自動的にピークはずれていくんじゃないかと思います。

また、天然エネルギーで太陽光発電、ドイツでは太陽光発電で、ちょっと数字は失念してしまっただけですけども、原子力発電の 23 基分でしたかね、を太陽光発電で発電可能にしたというニュースを耳にしました。日本もこれにはチャレンジすべきだと思います。

そして、原子力発電、お金のことです。原子力発電にかかわるお金の流れが、非常に不透明じゃないかと思います。総括原価方式、電力会社が発電に関するコストが上がれば上がるほどもうかってしまうこのシステム、これでは電力会社は原発をやめる理由がないと思います。この点、法的にも改めていかなければいけないと思っております。

また、原発の安全性につきまして、例えば大飯原発では先日原発の下に活断層が走っているんじゃないかと、再調査すべきだという意見が出たんですけど、直後に大飯原発は再稼働をしてしまいました。この点が、原発を規制したり、そういった原発をコントロールする力がまだ国民の側には弱いんじゃないかと、行政にも弱いんじゃないか。電力会社のほうが力が上回っているんじゃないかという疑問があります。このへんもはっきりさせてから法的にも整備した上で、原発の安全または安全じゃないをはっきりさせるべきだと思います。

そして、私はゼロシナリオを選んだんですけども、なんでこのゼロを選んだかという、目標というのは低く設定してしまいましたら、ハードルが下がってしまうんじゃないかと思いません。今後日本が原発に依存しない覚悟を決めていくのであれば、まず今の時点でゼロ、これを決めて、覚悟して、これから過ごしていければと思います。以上です。

## ◎司会者

ありがとうございました。続いて、意見番号 4 番の方、0%シナリオについての意見表明です。お願いいたします。

## ◎意見表明者 4

D です。きのう発表できますよという連絡があつて、まだ十分まとまっていないのですけ

ど、少し付き合ってください。実は、僕はゼロシナリオを選んだんですけど、先ほどの副大臣の説明を聞きながら、「あら、おかしいな」と思ったのは、ゼロシナリオというのは、2030年にゼロシナリオという話のようなふうにして僕は受け取ったんですけど、実際今年2012年に日本はもうゼロになったんですよ、原発は。それが今再稼働していると。

だから、僕の立場としては、本来ならこのゼロのまま行くはずなんだけど、これを2030年までやるということは、僕が原発を認めてしまうということになるもんですから、とてもおかしいなと思いながら、少し足しておきたいと思います。それを踏まえて、まず少し整理して話したいと思います。

まず、先ほどの話の続きでもあるんですけど、私は基本的には再稼働に反対し抗議を政府に対してしたいと思っています。その理由がまず幾つかあります。一つは、福島における原発、これは人災も含めて。これは福島一地域の問題だけではないというのは、これは明らかですよ。その上で、政府が今再稼働していくと。その再稼働する際に、果たしてどれぐらいの正確な情報を国民に対して出していたのかというのは、とても疑問があります。

もう一つ、当初政府はストレステストを第一次、第二次というふうにおっしやっていたんですけど、第一次評価の段階で再稼働をしているわけですよ。第二次ストレステストというのは、いわゆるメルトダウンをした状態のときに、どう対処するかということだったと思います。そのことについては触れずに、再稼働をしていると、これは国民に対する約束違反だと思っています。

そしてもう一つ、この原発問題で政府は、東電に対して1兆6000億円公的資金を投入していると思います。そして、再稼働していく。これは総理大臣が責任を取ると言っていますけれど、これほど無責任な発言はないわけで、ほんとに責任を取るのであれば、国民に信を問うことによって、それは可能になると思うわけです。だから、まずきちんと国民に信を問うことをする必要があると思います。

次に、よく政府は電力不足とおっしやいますけど、実は神戸製鋼などの大企業、大企業といったらおかしいね、大手の製鉄企業は原発1基分の電力を供給する力があるわけですよ。実は、それを完全稼働をしていないです。なぜかといえば、先日新聞に載っていたんですけど、非常に燃料費が高い、ある企業が高い燃料費を使って、自分たちで赤字を抱えてやっていくということは通常はあり得ないわけですから、もし電力不足というのであれば、各企業が持っている電力の力、また国民全体が持っている電力の力をもっと正確に把握をして、というよりたぶん把握していると思うんですけど、それを使っていくような政府の政策というのがあってしかるべきだと思います。その上で、再稼働という問題は出てくると思います。

もう一つ、今再稼働していくんですけど、再稼働していくということは、原発に働く人たちが今後増えていくということになると思います。これは昔、『原発ジプシー』という本で、今名前が変わって『原発労働記』という本があるんですけど、この本の中に、359ページにこう

いう資料があります。これは黒いのは、被ばくしていく非正規社員で、赤は電力社員です。圧倒的に非正規社員が被ばくしていくわけです。今後、再稼働していくということは、被ばくしていく労働者を増やしていくということになりますと、これは、労働災害と言ったら変な言い方ですけど、政府公認で労働災害を増やしていくようなものだと思っています。そういう面で、再稼働というものに対しては、私は反対したいと思っています。

次に、原発のことをどう考えていくかという場合に、まず核エネルギーというのはもともと自然界に存在しなかったエネルギーですから、これが作られていくということは自然界の中でエネルギーが増大していただくの話ですよ。つまり、ちょっと横文字で言えばアントロピーの拡大にしかつなげていけないということになると思います。これは、再生は不可能だと思います。もう一つ、じゃ、原発をやったときに出てくる核のごみは処理されているのかというと、ほとんど今、処理技術というのがまだ発達していない。その中で、ほとんどの原発の中ではこの核のごみを持ったまま今原発が存在しているということになります。これがいつになったらそういう核のごみというのが処理されていくのか分からないと。

もう一つ、1回原発が事故を起こしたら、福島のように、生活環境、そして自然環境に甚大な被害をもたらしていく。福島周辺で、最近では沖縄まで波の流れによってボートが届いてきたように、放射能汚染を国内及び国外にばらまいてしまうという、こういう結果が出てくると思います。ゼロシナリオということをお私は選択しているんですけど、じゃ、どうすればいいのかというときに、僕が考えているのは、当然自然エネルギーの再生なんですけど、僕としては、いわゆる日本国内及び、これは海を含めてなんですけど、幾多の自然エネルギーの開発があると思います。例えば、沖縄の場合は太陽エネルギーは高いですけど、しかし曇りの日が多いと。そういう地域によって違う自然環境。熱エネルギーの中でも、例えば鹿児島は地熱を持つことができるという、地域によって違うエネルギーを作ることができるわけですから、その地域、地域の違うエネルギーが混合型で存在する。

その混合型の地域エネルギーをネットワーク化していく。そのためにはどうしても送電線の共有化というのは絶対に必要だと思います。それを最近、田中さんという方がスマートグリッド方式というかたちで供給をやっていくということが可能になっていくということを出しています。そういう中で、もう一つ、化石燃料のことをよくおっしゃるんですけど…。

#### ◎司会者

ごめんなさい、お話の途中ではございますけれども、時間が大分超過しておりますので、そろそろまとめに入らせていただけますでしょうか。お願いいたします。

#### ◎意見表明者 4

はい、分かりました。よく化石燃料のことを言うんですけど、自然バイオマスのものはもともと自然のものを燃やしてエネルギーにしていくわけですよ。これは再生型のもので、果

たしてこれが化石燃料のうちに入るのか。むしろ、自然エネルギーの範疇に入るとは思います。そういうふうにして、もっともつとそういう自然バイオマスエネルギーを活用することによって、数字上は 53 から 55 と増えていくようになっているんですけど、もっとそれを圧縮することは可能だと思います。そういうふうにして、もっともつとそういう自然界にあるものをエネルギーに変えていく、自然界にあるものから出てくるごみを燃やしていくというふうにして、自然を活用したエネルギーの活用というのがあると思います。ちょっとほかにもありますけど、これぐらいで終わりたいと思います。すみません。

### ◎司会者

ありがとうございます。続いて意見番号 5 番の方、お願いいたします。5 番の方は 3 つのシナリオ以外についての意見表明と伺っております。お願いいたします。

### ◎意見表明者 5

こんにちは。南城市から来ました。以前は東京で編集者をしておりました。まず最初にですが、この全国での意見聴取会及びパブリックコメントについて、一応国民からは意見を聞いたからというような、アリバイのようなものに、形式的なようなものになるのではないかとこの危惧の声が上がっている事実があります。どうぞさまざまな意見にきちんと耳を傾けていただいて、政策決定にぜひ活かしてもらえるように、そういう場になるようにというふうに願っております。私は 3 つのシナリオの中から選べなかったものですから、それ以外、その他の意見ということで表明する機会をいただいていますけれども、これまでのゼロシナリオの方々の意見に非常に共感もしていますので、どこまで違うかというところなんですけれども。

私は 2030 年にゼロでは遅過ぎると思っています。一刻も早く原発ゼロを実現すべきだと考えています。まず最初にその強い決意があつて、その実現のためにできることは何かというところで細かいシナリオを作成すべきだと考えています。すぐ脱原発することは非現実的だということたちが多くいらつしゃいますし、大体経済のことですとか、日本は資源が少ないからというふうにおつしゃいますけれども、エネルギーのことというときにも何よりも議論されるべき中心になければいけないのは、私たち人間の、人間だけではないですけれども、健康とか命とかの問題なのではないでしょうか。それが守られないエネルギー政策というのは考えられないと思います。

先ほどもお話がありましたけれども、福島第一原発での事故は終わっていません。こうして将来のエネルギーについてみんなで考えることというのは非常に重要なんですが、実際に起こったことから学ばなければ意味がないのではないのでしょうか。空気も海も土地も汚染されてしまって、生活の基盤を失った方たちも多く、放射能に汚染された食料の問題というのも今でも深刻だと思います。そもそも生き物が存在できない環境になってしまったら、経済も何もなくなってしまう。私たちはそのような事故を目の当たりにしまし

た。現段階で事故原因の究明が一体どの程度進んでいるのでしょうか。私も含めて、多くの人たちの心の中に広がった原発への不安感とか政府や電力会社への不信感というのはそう簡単に拭い去れるものではないと思います。さらに数年以内に大きな地震が来るとも言われています。事故を経験して、そのときに原発をコントロールできなかったという事実があるのにも関わらず、まだこの地震国の、全国各地そうですが、この日本で原発を動かすのでしょうか。

心ある技術者の方たちは平常時でも原発はその構造上で危険性をはらんでいるというふうに述べています。非常時には一体誰が原発の安全を保障してくれるのでしょうか。私は、実際は怖くて仕方がないと思っています。原発の事故の全容についてほとんど議論されることがなく、不明点を残したまま、3つのシナリオはどれも今の原発は動かすというところから出発していることに大変違和感を覚えました。あのシビアアクシデントを経験した後に検討された内容だとはいえませんが、思えませんでした。

別のことになりますが、沖縄では今、オスプレイ配備への反対の声が上がっています。事故原因の検証結果は十分でないし、だから納得できないし、怖いです。それは自然な感情だと思います。ところが、強行されようとしています。日米同盟のために仕方なしという人たちは実際にあのオスプレイが毎日飛ぶ空の下に暮らすわけではありません。原発を動かすことは経済発展のためにやむを得ないというのとどこかその理屈は同じ根っこを感じます。国の利益のためだからといって一部の人たちの犠牲に目をつぶることは許されないのではないのでしょうか。どの地域の人たちも等しく安心できる政策というのを考えてください。それがどんなに難しくてもです。国民というからには、そういう言葉を使うからには、もう例外はないというふうに思いたいです。

また、先ほどからもいろいろお話がありましたけれども、既に使用済み核燃料はたくさんたまっています。安全な処理技術は確立されてきませんでした。原発が動き続ければ、さらにたまったそういう使用済み核燃料の危険も増えていきます。シナリオの最初のほうで、エネルギーの選択を行うに当たって重要となる4つの視点として、「1、原子力の安全確保と将来リスクの低減を掲げて、使用済み核燃料や放射性廃棄物の発生を抑制することにより、将来世代への負担を減少させることが不可欠」と明記されていますが、その具体的な内容は伝わってきません。

ゼロシナリオでは、「直接処分する政策」と明記されていますが、果たしてどこまでその技術が進んでいるのか、私はよく分かりません。2030年までにたまり続ける核のごみを安全に処理する方法がないと言えるのに、そこに目をつぶってしまっているのでしょうか。15%、20～25%シナリオには「再処理」とありますけれども、もんじゅのプルサーマルサイクルはこれまで機能してきていませんし、プルサーマルも課題を抱えていると思います。既に莫大な資金を投入しているにも関わらずです。化石燃料への依存は下げるべきですけれども、CO<sub>2</sub>に関しては、これまで原発を推進するために大げさに言われ過ぎていたようにも思います。ちょっと私の意見概要も訂正したいところですが、最近ではCO<sub>2</sub>が地球

温暖化を引き起こすという説を疑問視する声も増えているようなので、原発はクリーンで温暖化対策になるという大義名分は失われつつあると思います。

以上のことから、今日本が取るべき道はとにかく原発に依存しないという強い意思表示をすることと考えます。その目標に向けて知恵を結集して、少しでも早く実現すべきだと思います。安全のためである、未来世代のためであるということになれば、私たち市民であっても、きちんと必要な負担を担う覚悟は持てると思います。3つのシナリオには、電源の比率の違いによる選択肢しかありませんけれども、本来エネルギーも経済も人が安心して健康で暮らしていくためのものです。比率だけ話し合っても、将来のエネルギー政策について話し合ったことにはならないように思います。結論が8月では早過ぎるというふうにも思っています。シナリオの最後に、「危機を変革の契機とする」という表現がありました。変革というのなら、困難であったとしても、原発ゼロというエネルギー政策の大転換に向けて、ぜひ知恵を結集して、そのために最大限の努力をしていただきたいと思っています。

これまでエネルギー研究開発に関する予算は原子力にのみ莫大な金額が使われてきました。再生可能エネルギーには確かその10分の1ぐらいだったのではないのでしょうか。予算の配分を適切にして、日本の技術力をもってすれば、さらなる新しい再生可能エネルギーの可能性は見込めるはずです。以上です。ご清聴ありがとうございました。

#### ◎司会者

ありがとうございました。続いて6番の方の意見表明ですが、その前に配布資料がございます。ただいまスタッフがお配りしておりますので、お待ちください。中には一部モノクロの資料が入っているかと思いますが、どうぞご了承ください。それでは、意見番号6番の方にはゼロ%シナリオについての意見表明をしていただきます。お願いいたします。

#### ◎意見表明者6

すみません、私、Gと申します。東京からこちらにきょうは先日から泊まりでちょっと来まして、東京という一大消費地の立場で意見を述べさせていただいたほうがいいのかと思ひまして、この機会をいただきましたこと、ありがとうございます。先ほどの4番の方もおっしゃったように、一度原子力発電所はすべて止まりました。一切止まっているのに皆さんの生活環境は変わっていないと思います。その中で、皆さんの努力が節電ということを達成することによって実現して、その維持が何となくできたということなんだろうと思いますが、これをどう維持していくかです。石田副大臣も清水審議官もよく私の配布した資料を見ていただきたいなと思います。

国民一人の声として、国家戦略として何を考えるかです。原発を造る、あるいは稼働させることが国家戦略だと私も思っておりません。一部の企業の、原発を造る大手の企業の利潤を追求することが目的でもありませんし、経団連の言葉を聞くことでもない

思っています。日本には、たまたまこの会場にも蛍光灯が付いています。LED という、日本が初めて世界で作った技術があります。省エネのための照明の技術です。全電力のうちの約 28%から 32%が照明という明かりの目的のために消費されています。そして、日本にあります、今 4 基止まっていますが、51 基の原発すべてが総生産をフル稼働させたとしても、4000 万キロワットちょっとしかありません。過去の 10 年間の平均稼働率は 63.7%です。わずか 3000 万キロワットぐらいの要はエネルギーしか作れていません。

ところが、日本には、この蛍光灯、この合同庁舎も含め、法人も含め、民間の家庭の中には入っていませんが、こういう直管型の蛍光灯は、電球工業会が調べて、過去 5 年間の総販売本数だけで 10 億本という本数を売っています。10 億本という本数は電球工業会、当然のことながら経団連に属している企業です。10 億本という本数はそれだけたくさんのが消費されています。そして、今現状、法人と呼ばれているこういう建物を含めた中に入っていますガラスの蛍光管だけで約 20 億本あると言われています。私の事務所からも霞ヶ関のビルがこうこうと明かりがついているのが見えます。それが一切変わっていません。添付した資料にもありますように、1 本の蛍光灯は約 47 ワットの消費電力を食っています。

日本中でもし 20 億本がフル稼働していれば、何とどのぐらいになるかと単純に計算すれば、9400 万キロワットアワーという 1 時間の電気を無駄にしています。稼働率が 7 割と仮にこの蛍光灯をいたしたとしても、約 6000 万から 5500 万キロワットという膨大なエネルギーを節約するきっかけになります。そして、それをやめることが、今まで皆さん 5 人が意見を言われた、福島のような事故を起こさないこと、そして、いったん止めた原発がゼロになったという経験を持っていること、そして、この製品を世の中に普及させることが国の国家戦略なんじゃないんでしょうか。それを普及させるためにどれだけの費用がかかるかって簡単です。今、原発のために日本の国家予算約 1 兆 7000 億、交付金から含めて毎年使われています。わずか 8000 円から 7000 円のこの蛍光灯だったら、1 年で 2 億本以上の本数が普及させられます。すべてがそのお金を使ったとすればです。そうすれば、日本中にある 20 億本は 10 年以内に替えることができますはず。そして、そのために作る工場、そしてそれを素材を集めたり部品を集めたりする、そしてそれを作るといふ雇用を安定させるためのことも十分できるはず。それが原発交付金が行っていた各自治体に工場を作り、新たなそういう照明のインフラ。

日本には、すべて高速道路からトンネルからコンビニから JR から地下鉄からすべて照明があります、建物の中。その照明のインフラは何と 100 兆円と言われているそうです。蛍光灯だけで 1 本単純に 8000 円と計算しても、16 兆円分です、LED に換算して。それを作って日本で普及させれば、膨大な仕事が日本に生まれます。経済の活性化にもつながるはず。実際に、きょうはサンプルを持ってきました。これが皆さんの助けになるはず。見てやってください。これが実際なんです。これが実際なんです。これ、わずか 10 ワットしか食わない蛍光灯を私は手に入れました。それで意見を言わせていた

だいています。これ、皆さん見て分かりますように、何のケーブルもつながっていないんです。ついているんです、これ。なぜついているか分かりますか。これ、エネルギーがこの中にたまっています。これ、リチウムイオン電池を中に内蔵しています。常時こうやって通電しているときにためて、後で放電することができるようになっています。

つまり、こういう技術を日本は持ち得ています。LED も、日亜化学とか豊田合成という世界に冠たる企業が日本にあります。そういうものをもっと考えることなんです、技術を。そして、世界に言っていくことが国家戦略の 100 年の計、50 年の計、30 年の計画だと思っています。選挙をやるためにいつときだけそんなことを考えることじゃないはずなんです。この明かり、皆さんが天井で見ている明かりとどちらが遜色あるでしょうか。このバッテリーで何と 2 時間つきます、これ。2 時間つきます。聞いた話です。

こういうものを人間が英知を養って作ったもので、そして原発をなくせば、福島事故もなければ、これから先の 5 年から 6 年でこれを入れ替えることによって全原発を廃止することができるんです。想定した清水審議官、シナリオで GDP が 0.8% 増えますという数字を元にして、2030 年にゼロにした場合にこれだけの負担があるということではないんです。すべて何かしら具体的なものを持って、そして提示すべきことだと思います。仮定の数字じゃありません。皆さんは約 2 兆円から 1 兆 7000 億というお金を国は無駄にして原子力につぎ込んでいます。そのお金をこういうものに変えてください。変えたら、エネルギーははるかに減るんです。これが皆さんが気が付かない大きな欠点なんです。勉強しないこと、覚えないこと、そしてそういうものに目を当てて、そしてそれを国民として大きな声にしないことなんです。そして、仮のパラメータだけで作った数字で事前にああいう話をする自身、国民一人の意見としては絶対にノーです。もっと正確に物事を清水審議官、捉えてほしいです。私はそういうふう感じて、この話を終わりたいと思います。よろしいでしょうか、皆さん。真剣に考えてください。

## ◎司会者

ありがとうございます。続いて意見番号 7 番の方、お願いいたします。ゼロ%シナリオについての意見表明です。

## ◎意見表明者 7

こんにちは。ちょっときょうは声がうまく通らないのでごめんなさい。聞こえない方、もしましたら教えてください、直しますから。このエネルギー・環境の選択肢の意見聴取会の意見概要の 7 番が私です。ここには、「原発廃止を前提とした原発開発の記録と公開。隠蔽されてきた核兵器と原子力のネガティブ要素を関係者の健在なうちに記録・公開することで、次世代の原発化・放射能化に対策する一助にしたい」、こういうふうにとまとめました。実際、もうちょっと簡単に柔らかい言い方をしたいと思っています。H といいます。今、糸満に住んでいまして、実は、叔母の介護のために、学生時代からやっていたビデ

オ制作の会社を畳みまして、千葉に農園を買ったんです。荒地なので、そこを果樹園にしようとやっている最中にちょっと 3.11 やっちゃったものなので、農薬農園はやはりもうちょっとさわやかなところじゃないかなということ、加計呂麻島とかいろいろ歩きまして、今は沖縄にきています。ただ、残念なことに、ちょっと叔母の介護施設とかを用意しているときに、3月6日なんですけど叔母も亡くなりまして、そのへんはちょっと。ただ、人生の優先順位が一応介護だったものなので、今はちょっとぼうっとしている状態です。そんなわけで、ちょっと聞いてください。

というのは、私は、1977、8年頃に東京で大学生をやっていました。大学の頃は、「原発は嫌だよね」と言うんですよ。さっきおっしゃっていた『原発ジプシー』を読んでいますから、「原発はまずいよね」、こう言うわけです。そうすると、学校は地方の子が多いので、そう言うと、みんな、ささつといなくなっちゃうんですよ。あるいは、話がちょっと止まっちゃったりするんです。原発の話をしちやまずいのかなと、こう思ったわけですよ。そうこうするうちに社会人になりまして、ビデオ制作をやっていますから、いろんな会社に入り込むわけですね。官公庁系であれば、郵政省さんとかそういうところをやらせていただきまして。昔はとにかく少なかったんで、ビデオをやる人が。そうしますと、やっぱり取引先さん、代理店さんなんか「Hさん、その話、しないでください」、こう来るわけですよ。「ええ、原発の話しちやいけないんだ」と。社会人ですから、原発の話をしません。だって、嫌われたくないんですもん。嫌われると仕事がなくなっちゃいますからね。そうこうするうちに、もう30年ぐらいですから、そんなことは黙っていようと、忘れちゃおうと、もう誰も言わないんだから、嫌われたくないよね。

ところが、2010年に、ある方が私に言うんですよ。「Hさん、あんたとは私、付き合いませぬ。付き合いませぬ。これからは絶対付き合いませぬ」、こうおっしゃるんですね。その方は、その前の日かその前の前の日ぐらいに電話をくれまして、「これから先、生涯お付き合いしましょう」と、こう言っていたんですよ。ころっと手を変えちゃうんですね。何なんだろうという、「あんたは反戦芸術家として作品を展示している。反戦はまだいい。反核は困る」。反核は困るんですか、みんなそんな戦争が好きなのかなと。その方はおっしゃるんですよ。「私の会社は原発を造っています。原発は核兵器です。ですから、あなたが、要するに私Hが反戦、反核をやっているということは反核兵器だと。つまり反原発になると。つまり、彼としては、自分の奉職していた会社、住友金属さんというんですけど、そちらに対して裏切り行為になるから、もう付き合いたくありませんと、こうおっしゃるの。あら、原発は原子力の平和利用だったんじゃないのかなと、こう思っていましたよ、僕それまで。そんなふうだね、日本って変わっちゃったんですよ。これはアメリカ軍の1945年の政策によるんです。その頃、アメリカ軍は原爆の非が非常に大きかったので、情報を封鎖しよう。ですから、写真も駄目、被害者がしゃべるのも駄目、治療も駄目、研究も駄目、もう全部駄目駄目駄目にして、情報を全部持って帰っちゃったんです。この1945年の情報の問題が今でも実は尾を引いているんです。それは原子力関係については、原発イコー

ル核兵器って言えません。同時に、例えば内部被ばく。これも情報ありません。情報がないということはエビデンスがない。こういう言い方をするんです、医療関係者は。「論文がないんです。論文がないと、そういう事実はありません。事实在ないから内部被ばくはありません。だから安全です」。こうなっちゃったわけです。これですごくたくさんの方が苦しんでいます。

私は、実は、沖縄で原発避難の方のインタビューを作っています。話せる人はいいいですよ。話せない人がいっぱいいます。自分の出てきた福島の人を裏切っちゃう。あるいは、残してきた夫が仕事がなくなっちゃう。だから話したいけど話せない。物が言えない社会になっちゃったんです。これが原発のもたらした一番大きな問題かもしれません。日本が変わっちゃったんですね。ですので、お願いしたいことは、そういう原発の周りのいろんなことをもう皆さん開発者、昔の方は亡くなり始めています。そういう方のいろんな話を聞いて、残してあげたいんです。そして、聞いて残して、彼らの失敗したことをいっぱい記録しましょう。これまで原発関係は失敗がなかった。「全部安心だ。全部安心だ。100%」、こう言ってきました。でも、絶対失敗はあったはずですよ。その小さい小さい失敗をたくさんたくさんごまかしてきたことがたぶんこの 3.11 の原因だと思います。今すぐできることです。一人でも多くの方が一人でも多くの方から話を聞いて記録してください。そして、公開しましょう。その失敗の蓄積がたぶん成功の素ですよ。ありがとうございます。

#### ◎司会者

ありがとうございました。続いて意見番号 8 番の方、お願いいたします。ゼロ%シナリオについての意見表明だと伺っております。お願いいたします。

#### ◎意見表明者 8

皆さん、どうもお疲れさまです。沖縄県那覇市在住の|と申します。年齢は 31 歳でございます。皆さまと違いまして、意見が相当短いものですから、少し大きな声で発表させていただきます。まず、沖縄の現状を鑑みて、1 つの提案をさせていただきたいと思っております。沖縄は全国一高い電気料金、全国一県民 1 人当たりの、CO<sub>2</sub> 排出量だと聞いております。しかし、原発には頼っていないエリアでもございます。そこで、沖縄をモデルケースに地球環境問題への取り組みを強化すべきであると思っております。要するに、実験でございます。具体的には、国家プロジェクトとして、太陽光、海洋温度差、風力等の再生可能エネルギーで 1 つの自治体すべての電力をカバーする。そうすることにより、環境配慮に対する住民の意識改革につながると思っております。例えば、家庭用太陽光パネル、家庭用蓄電池技術、官公庁用電気自動車、家庭用電気自動車を全額国庫負担とし、実証後、日本全体を再生可能エネルギーにすることで、原発に頼らない世界に誇るエコ先進国になると思っております。ぜひ、太陽カンカンなこの沖縄を利用してください。政府のコメントをいただけると幸いです。短いですが、以上でございます。

## ◎司会者

ありがとうございました。最後になりました、意見番号 9 番の方、お願いいたします。ゼロ%シナリオについての意見表明となります。お願いいたします。

## ◎意見表明者 9

J と申します。まず、この頭にびつくりされる方が多いと思いますが、少し前までタペストリーを織っておりまして、今は再稼働の見通しが立たないまま、普通の主婦をしております。普通の主婦の普通の考えを言わせていただきたいと思います。住まいは平成 22 年 10 月から糸満に仮住まいをしております。主人の仕事がまだ東京に残っておりますので、それと 105 歳の母を施設で東京で預かっていただいておりますので、いまだに行ったり来たりをしておりますが、いずれこの地をついのすみかに、友達も多いので考えています。震災の折はこちらにいました。庭の草むしりをしていましたら、防災無線で津波警報を聞きました。この沖縄で何が起きたのかと思って、慌てて家に入り、テレビを付けました。目を疑いました。それからこの 1 年、東電、政府、報道いずれにも疑惑、不信、落胆、怒り。知らされないことがいかに虚しく悔しいことかが分かりました。今回のシナリオに関しましても、データの提供がないに等しい中で選択をするということにまず疑問を抱いて、これに応募をしました。

例えば、再稼働してしまった大飯原発の下の活断層のこと。ほかの原発の近くに活断層はないのでしょうか。科学の進歩により、日本列島は大地震の可能性を秘めた島だと分かっていないのですか。大津波の高さのこと。二度と想定外という逃げ口上を使わなくて済む原発は今どこにあるのでしょうか。そういうことを知らされなくて、ゼロ%、15%、そういうことが私には理解できませんでした。人の命を尊び、人のためになる原発。仮にあるのなら、私は電気関連企業の倒産による社会混乱、日本経済の破綻、それを避けるためならゼロシナリオでなくてもいいと思います。でも、本当はあり得ないことです。また、人も機械も完璧ではありません。どんなミスを犯すかもしれません。少しのミスによって起き得る事故であっても、それは原発では、単なる事故ではなく、想定外に及ぶかもしれないのです。原発の崩壊の悲惨さ、2 世代、3 世代と悪夢の連鎖です。今、問題を提起し考慮している私たちは、日本国内にとどまらず、100 年、200 年もそのもつと先、世界に向けても責任を持って私たちが決定しなければならないことだと思います。

今だけを隠し覆える頬かむりなど考えている人たちがいるのなら、同じ日本人として情けないことこの上ないです。よく言われる、政治家、地元の利権で成り立つ村。一面、必要悪かもしれませんが、けれど、家族の命、友達の命、奪ってまでも許される利権の村はないはずです。この日本からなくしてほしいと願っています。英知ある日本人なのですから、考えてください、危なくない村の実現を。私たちの子孫が人為的な災害に遭わないように。高度成長下にあった私たち戦後世代が浮かれ過ぎた結果で過剰な電気社会を

作ってしまったという反省もありますが、自民党下で不安も疑問も持たず、気付けばあまたの原発村が日本中に点在している現状。気付くのが遅過ぎました。でも、気付いたからには、想定外の阻止をしなければならないのが私たちの役目だと思います。国、各電力会社が第 2、第 3 の想定外は起こらないと言い切れますか。

今分かったことは誰も責任を取らない、取れない。ささやかな暮らしとかけがえのない命の代償は保証金と賠償金とペコペコ下がる頭だけです。私たちが今のただ居心地のいい生活から贅沢と必要をもっと分ける判断を持ちさえすれば、節電は叶うことだと思います。原発以外の道もいろいろ考えられてきています。ですから、私は、シナリオはゼロです。以上です。どうもありがとうございました。

### ◎司会者

ありがとうございました。これで予定していた方々からの意見表明はすべて終了いたしました。意見表明者の皆さまの中で、これまでの発言内容についてのご意見、ご感想がありましたら、お一人さま 2 分以内でご表明いただきたいと思います。発言されたい方は挙手をお願いいたします。では、6 番の方、お願いいたします。

### ◎意見表明者 6

皆さんがいろんな意見を述べていただいたと思うんですが、これを絶対に無駄にしてほしくないんですね。何のためにやって、これがジェスチャーにならないことが国民一人一人の気持ちだと思います。特に具体的な数字を持って、本当に向こう 5 年あるいは 10 年、その間にどうやったらいいかということ国が指し示すことだと私は思います。

私はもう 60 の年です。70、80 になってから、どうなったかなんていう心配を日本ではたたくないと考えています。やはり、電気というのは、あつて確かにこの 60 年生活が豊かになったと思いますが、よく考えてみたら、どこが無駄になっているかを誰も考えてこなかったというのが大きな問題だと、石田副大臣、私は思います。そこを直していくこと、そして、それが基幹産業になるようなものが今日本に寝ているということだと私は思います。やはり、それが GDP を本当に引き上げるための大きな要素になれば、経団連でも、あるいは日商でも、どこでもそういう意見については賛成するんじゃないでしょうか。自分たちの、要は企業が繁栄することを考えれば、その部分は出てくると思います。その裏返しに国民が不幸になることではないと思います。そしたら国民が幸せになり、そしてそういう安全が保たれることだと私は思っています。特に、皆さんが気にせずずっと過ごしてきたこの照明という電気の割合というのは、先ほどちょっと私お話ししたのが事実です。30% 近くを占めている総電気エネルギーが照明としてただ単に消えていっています。これを作り続けなければ、確かに夜は活動することができないのが人類です。そして、日本というのは宇宙から見ても大変明るい国だそうです。それを少しでも抑えながら、要は発展していく、そして国民全体が幸せになるためにさまざまな神経を使っていくという中に国家戦略

がもしあるのだとするならば、石田副大臣と清水審議官にぜひともそういう大きな産業の柱を立ててほしいんです。そうしなければ、このエネルギー政策というのは今までやっている産業にただそのまま使われてそのまま現状が伸びていかないことで終わってしまうと思います。

**◎司会者**

6 番の方、そろそろまとめをお願いいたします。

**◎意見表明者 6**

はい、お願いいたします。

**◎司会者**

ありがとうございました。ほかに、どなたかいらっしゃいますでしょうか。はい、1 番の方、どうぞ。

**◎意見表明者 1**

いろんな意見を聞かせていただいたんですけども、やっぱり僕ら、次の世代というか、またさらに若い子たちが日本に誇りを持って生きていってもらうために、先ほど国際貢献という話もいろいろ来賓の方からあったと思うんですけども、本当に国際的に認められる国に、今ロンドンでオリンピックをやっていますが、今の状況で日本でオリンピックができるかというと、できないと思うんですね、恥ずかしくて、こんな状況で。できるのであれば、やっぱり早く、「日本はこういう国ですよ。皆さんも真似してください」と。お金をばらまきだけでなく、やっぱりアイデアや知識なんていうのをいろんな国に提供できる、若い人たちも生き生きとされるような生活をしていければいいなと思いますので、ぜひエネルギーだけでなく、点で環境となっていますけど、環境のほうも議論を深めていってほしいなと思います。

**◎司会者**

ありがとうございました。本日は、9 名の皆さまから意見表明をいただきました。ありがとうございました。本日、意見表明をいただけなかった皆さまも、席上のアンケートや政府のエネルギー・環境会議のホームページ内でご意見をいただくパブリックコメントを実施しておりますので、どうぞご利用ください。

**<大臣挨拶>**

**◎司会者**

それでは最後に、石田国家戦略担当副大臣からご挨拶をさせていただきます。

## ◎石田副大臣

本日は、さまざまな立場から有意義な、そして建設的なご意見等、お聞かせいただきました。まず、この会場にお越しいただいた皆さま、意見を述べていただいた皆さま、またウェブ配信を通じてご覧いただいた皆さま方に心から厚く御礼を申し上げる次第でございます。エネルギーの選択は、国民一人一人の意見を出し合いながら、責任を持って、真剣に考えていかなければならない課題でございます。本日のように、さまざまな立場のご意見に耳を傾け、より広い視野をもって問題について更に深く考えたい、そして皆さま方にも考えていただき、ご家族やご友人など議論を深めていただきたいと考えております。本日の議論を踏まえて、会場の方はお手元のアンケートで、またウェブをご覧の方はパブリックコメントで、ぜひ幅広くご意見をお寄せいただき、ゼロ、15、20 ないし 25、あるいはその 3 つのシナリオ以外について、皆さまがどれを支持されるのかというご意見、それがどういう論点に拠って立つものかを整理する、政府として丁寧に把握し、これらの政策決定に反映をしていく所存であります。皆さまに考えていただくための題材は、特設サイト「話そう エネルギーと環境のみらい」で提供しているのであります。選択肢が決定されるまでの議論の経過、データや事実関係、有識者の御意見についてもご紹介しているので、ぜひご覧いただきたいと思っております。いただいたご意見に耳を傾けまして、8 月を一応めどに、責任ある選択を行っていきたいというふうに考えております。本日は大変長時間にわたりまして、暑い中、ご参集を賜りましたことを重ねて感謝を申し上げまして、ご挨拶させていただきますと存じます。ありがとうございました。

## <閉会>

### ◎司会者

ありがとうございました。以上をもちまして、「エネルギー・環境の選択肢に関する意見聴取会」を終了とさせていただきます。お帰りの際には、どうぞアンケートにご記入いただきまして、出口の係りの者にお渡しください。よろしく願いいたします。また、お忘れ物ございませんよう、お気をつけてお帰りください。本日は、暑い中お集まりいただきまして誠にありがとうございました。